

## セレコキシブ錠200mg「JG」の生物学的同等性試験(溶出試験)

### 1. 試験目的

セレコキシブ錠200mg「JG」は、非ステロイド性消炎・鎮痛剤(COX-2選択的阻害剤)である。今回、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン」に従い、ヒトを対象とした生物学的同等性試験により先発医薬品との同等性が確認されているセレコキシブ錠100mg「JG」を標準製剤として、溶出試験を実施した(処方変更水準:A水準)。

### 2. 試験条件

試験法	回転数 (rpm)	試験液	PS* 添加	温度 (°C)	試験液量 (mL)	ベッセル数	分析法
パドル法	50	pH6.8(日本薬局方 溶出試験第2液)	○	37 ±0.5	900	12	液体クロマトグラフィー

※ 0.5% (W/V) ポリソルベート80

### 3. 判定基準

回転数 (rpm)	試験液	判定基準
50	pH6.8+PS	平均溶出率: 標準製剤の平均溶出率が約60%及び85%となる適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±10%の範囲にあるか、又はf2関数の値が50以上である。 個々の溶出率: 試験製剤の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが12個中1個以下で、±25%の範囲を超えるものがない。

### 4. 試験結果

判定時点における試験製剤の平均溶出率が判定基準に適合していることが確認され、平均溶出率に対する個々の溶出率は判定基準の範囲内であった。

判定時点における平均溶出率

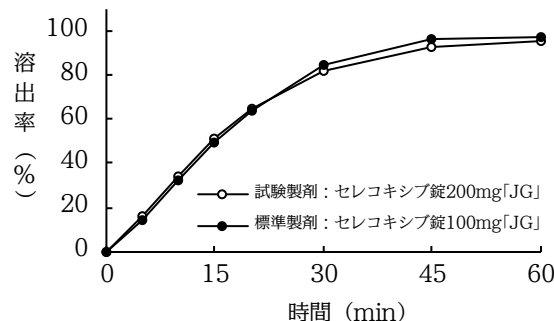
回転数 (rpm)	試験液	判定時点 (min)	溶出率 (%)			判定
			標準製剤	試験製剤	差	
50	pH6.8+PS	20	64.0	64.4	+0.4	適
		30	84.7	82.0	-2.7	

判定時点における個々の溶出率

回転数 (rpm)	試験液	判定時点 (min)	溶出率 (%)	個々の溶出率 (%)	個々と平均の差 (%)	判定
				最小値~最大値		
50	pH6.8+PS	30	82.0	80.9~84.3	-1.1~+2.3	適

溶出プロファイル

pH6.8+PS、50rpm



### 5. 結論

「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン」に従いセラコキシブ錠200mg「JG」の生物学的同等性試験としての溶出試験を実施した。標準製剤セラコキシブ錠100mg「JG」と溶出挙動が同等と判定され、生物学的に同等とみなされた。

令和2年4月

001